私のモチーフ

範子

会員 秋山

弘前産の漆器、

津軽塗をモチーフ

5点出品した中の一枚で、あの頃の でしたが、独学であるが故に壁にぶ という月刊誌があり、 きました。当時、38円の、アトリエ 術部展を、田中画廊、で開いたとき、 歳の時の自画像が出てきました。美 大の受験に失敗し地元の短大での美 を調べていたら、隅の埃の中から19 にして静物画を描いています。 た。リルケが将来に悩んでいた19歳 たドイツ語詩人、リルケの言葉でし に支えになったのは、当時読んでい つかることも多く、そんな苦しい時 このたび、自宅の作品の収納場所 事欠かないバイブルのような本 走馬灯のように思い出されて 絵の勉強に

> 感じ入りました。 の道への、原点、になる言葉だと、 で、自分がこれから目差していく絵 けなさい。」…私はこの一節を読ん と思うなら、その心に従って描き続 と。」「そして書かなければならない 刻に自分自身に尋ねてごらんなさ もまず、あなたの夜の最も静かな時 どうか調べてごらんなさい。何より 心の最も深い所に根を張っているか くさぐって下さい。それがあなたの なたが書かずにいられない根拠を深 段は、自らの内へお入りなさい。あ い。私は書かなければならないか

> > 前

前は示現会青森県支部も、毎年、 き、博物館のように飾棚、鏡台、 とても活気がありました。奥の建物 では、芸術に興味のある多くの人達 専門の老舗でした。白壁に太く黒い 春展を開いておりました。、桃と鬼 では職人の制作過程を観ることがで 桜で有名な弘前城にほど近い一番町 風格のある店舗に併設した画廊 1.示現会青森県支部も、毎年、新重箱等が揃っておりました。以 春夏秋冬、足早に行き来して、 時、 部展を開催 明治30年創業の津軽塗 した田 中屋 座

車場になってしまいました。 灯、その時出品した作品です。 しかし時の流れに逆らえず、数年 田中屋も突然店を閉じ、 今は駐



こんな一節がありました。「誰もあ

の〝若き詩人〟に送った手紙には、

なたに助言したり、手助けしたりす

ることはできません。ただ一つの手

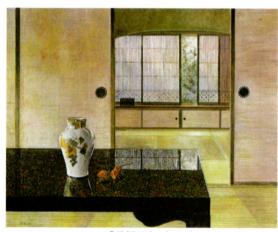
19歳_ 「自画像



です。 自宅の和室の窓辺に座卓を置いて、 あ 以上にわたってようやく完成するとは、全部で4の工程があり、2か月 あります。ただ漆を塗って、乾いて ます。その種類は、 7004から研ぎ出して、又塗るという作業 田源兵衛、源太郎親子の創始とされ まりにも馬鹿真面目すぎるから われています。又繰り返すことが、 津軽塗は元禄年間 馬鹿塗りとよばれてもいたそう 私は一般的な唐塗が好きで、 紋紗塗、寿々喜塗等いろいろ 津軽藩お抱えの塗師、 唐塗、 (1688 - 1)七子塗、 池



「浅き春」 (2015)



「秋好日」 (2016)



「梅雨晴れ間」 (2018)

がします。

大のリルケの言葉は、リルケがまですが、あれから何十年、ちっともですが、あれから何十年、ちっともですが、あれから何十年、ちっともだ20代の時に書いたものとは、驚きだ20代の時に書いたものとは、驚きがします。

のですが、なかなか思い通りに描け心の動きや詩を、表現したいと思う

その卓上の季節感、

光と影の動き、



「街春」 (2016)